



民俗文化財 北谷城内「東ノ御嶽」（あがりのうたき）

北谷城は1.9haの面積をもち県下でも五指に入る比較的規模の大きい城である。形式としては東西に連なる郭をもつ連郭式で、出土遺物より12世紀以前に始まり15世紀の中頃に終焉したグスクである。

「東ノ御嶽」は北谷城の東に位置し、『琉球国由来記』に記録されるヨシノ嶽、神名テンゴノ御イベに由来する拝所と考えられる。

伝えによると右側香炉は、今帰仁村のクボー御嶽のお通しという。旧暦5月・6月ウマチーの時、北谷ノロと北谷三箇ムラ（北谷・玉代勢・伝道）によって拝まれている神聖な場所である。また、北谷グスクとの関わりや、信仰習俗を後世の人々に継承するためにも保存が必要である。